

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館	
施 設 名	滋賀県立文化産業交流会館	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 ( 総 額 )	1,794	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,794 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

# 1. 事業概要

## (2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 邦楽専門実演家養成事業	稽古：令和5年10月21日(土)～令和6年2月10日(土)	A：箏アンサンブル習得コース 〈6人参加〉  B：ユース箏アンサンブル習得コース (35歳未満)〈2人参加〉  C：マスターコース〈9人参加〉  合計参加者数17人  演目 「今日のよろこび」宮城道雄 作曲 「岡康砧」岡安小三郎 作曲 「対話」清水脩 作曲 「DANCEIV」池上眞吾 作曲 「OKOTO」沢井比河流 作曲 「水煙風鐸」長澤勝俊 作曲  出演者 邦楽専門実演家養成事業修了生 17人  主なスタッフ 監修：久保田敏子 講師：野村祐子、池上眞吾、片岡リサ、吉澤延隆	目標値	21
		演奏会：令和6年2月11日(日・祝)		稽古：滋賀県立文化産業交流会館 第1・第2会議室、練習室1・2、小劇場	実績値
		演奏会：滋賀県立文化産業交流会館 小劇場			

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p><b>&lt;事業の組み立て&gt;</b></p> <p>「滋賀県文化振興条例」（平成 21 年（2009 年）7 月施行）に基づいた「滋賀県文化振興基本方針」（平成 23 年（2011 年）3 月策定）が、令和 3 年（2021 年）に改定（第 3 次）され、当財団は新たに 5 か年の「中期経営計画」を策定し、環境の変化に迅速に対応し、効果的・安定的な運営を継続的に行うよう努めている。</p> <p>当館では、滋賀県湖北地域および施設の特性を活かし、当館ロゴマークにも込められた「コミュニケーション」をキーワードに、観光・産業、教育、福祉をはじめ多様な分野とつながり、創造的で持続可能な取り組みを行っている。</p> <p>当館が位置する湖北地域は、子ども歌舞伎の祭礼や和楽器弦の製造など、伝統芸能や伝統産業などが息づいている。当館では、歴史的資源に恵まれたこの地域で、伝統芸能を次世代に受け継いでいくため、平成 23 年から古典芸能の自主制作公演や邦楽・邦舞の普及啓発や人材養成に関する事業に取り組んでいる。</p> <p>具体的には、小中学校へ邦楽の演奏家が出かけて演奏し児童・生徒が体験する「和のじかん」*、小学生が箏や邦舞を体験し成果発表する「キッズワークショップ」*、その修了生による「箏曲ジュニア・アンサンブル」*、そして、プロを目指す「邦楽専門実演家養成事業」（助成対象事業。以下「養成事業」と段階的に取り組んでいる。この養成事業の修了生で構成された滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」は、当館で自主制作する芝居小屋「長栄座」公演*や湖北地域の劇場等に出演している。（*）印は、助成対象外事業。以下同じ）</p> <p><b>&lt;事業の推進&gt;</b></p> <p>養成事業は、第一線で活躍する講師のもとで、次代を担う中堅若手の箏曲演奏家の育成を目的に、10 月から 2 月まで、箏、十七絃、三絃の実技を学んだ。受講生は公募による審査を得て、養成事業で古典から現代曲を幅広く学び、日々研鑽を積み、完成度の高い演奏会を開催することができた。演奏会では、演奏内容はもとより、出演者自らが衣裳や客席からの登場、映像も使うなどの演出を考えた。舞台と客席が一体となった構成で、観客からも高評価を得た。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p><b>&lt;文化的意義&gt;</b></p> <p>古典芸能事業に小学生から社会人まで、段階的に取り組むことで、次世代への継承につながっている。「キッズワークショップ」*に参加していた小学生が、全国規模の箏曲コンクールで入賞したり、「箏曲ジュニア・アンサンブル」*メンバーだった高校生が養成事業に参加し、今春から邦楽の専門学科を有する音楽大学に入学している。また、養成事業の演奏会をメディア関係者が聴き、ラジオ番組への出演依頼があり演奏する。当館で古典芸能事業を始めて 13 年目の年であったが、その成果が少しずつ表れている。</p> <p><b>&lt;社会的意義&gt;</b></p> <p>湖北地域は、人口減少や少子高齢化が著しく、その対策のため、昨年度から滋賀県では「北の近江振興プロジェクト」を立ち上げた。当館も文化芸術を通して地域の魅力を県内外に広く発信し伝えられるよう、このプロジェクトに令和 6 年度から加わり、この地域の伝統芸能や伝統産業などの歴史的資源を背景に、養成事業の修了生による滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」が、湖北地域の各地に出かけコンサートや参加者への箏体験や、当館で箏糸を劇場内に張り巡らせ、箏の音色を身近に聴いていただく演奏会を開く。</p> <p>また、湖北地域には市町村合併前に建設された多くの劇場があるが、「しゅはり」や「箏曲ジュニア・アンサンブル」*がその劇場に演奏に出かけ、古典芸能をはじめ日本文化の魅力を知っていただくとともに、周辺地域の方々のコミュニティの場になっている。</p> <p><b>&lt;経済的意義&gt;</b></p> <p>当館の位置する米原市は、北陸、東海、関西との交流拠点で、滋賀県で唯一、新幹線の停車駅があり交通の便が良いところであるが、米原駅の改札口を出る人は多くはない。しかし、当館が湖北地域の文化振興拠点として、養成事業をはじめ文化芸術事業を行うことで、米原駅で下車し当館および当館周辺の賑わいにつながっている。養成事業の参加者は、愛知、京都、大阪など県外の参加者が多く、演奏会には県外のお客様も来場され、湖北地域の魅力を知っていただく機会と経済効果につながっている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

目標① 箏（十七絃含む）・三味線の中堅・若手の演奏家を対象に、「長栄座」公演\*や修了演奏会に出演する実演家として、技術・意識・創造力の向上を図る。★基本方針(3)若手芸術家の発掘と育成・支援に該当

指標 養成事業から「長栄座」公演への出演者数 8 人

実績 養成事業から「長栄座」公演への出演者数 12 人（達成）

目標② 普及啓発事業である「古典芸能キッズワークショップ」\*および「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*と連携することにより、子どもから 10 代、中堅までの箏曲演奏者を総合的に支援する育成機関として文化産業交流会館が認知され、多彩な人材が輩出されることを目指す。★基本方針(3)若手芸術家の発掘と育成・支援に該当

指標 養成事業「演奏会」の出演者数 16 人

実績 養成事業「演奏会」の出演者数 17 人（達成）

目標③ 35 歳以下の若手演奏家のための「ユース箏アンサンブル習得コース」や音楽大学邦楽科修了レベルの新進演奏家を対象とした、五線譜の使用を基本に、現代的な演奏やアンサンブルを目指す「現代演奏（マスター）コース」により人材の発掘を行う。★基本方針(3)若手芸術家の発掘と育成・支援に該当

指標 「ユース箏アンサンブル習得コース」の受講者 2 人、「マスターコース」の受講者 6 人

実績 「ユース箏アンサンブル習得コース」の受講者 2 人（達成）、「マスターコース」の受講者 9 人（達成）

目標④ 将来的に県内外のコンサート等にも出演する機会を提供するなど、古典芸能の普及や当館事業の紹介の役割を担う。★基本方針(5)文化芸術の力を活かした地域活性化に該当

指標 設定なし

実績 当該事業の受講生が当館以外の他の劇場などで活躍する場が少しずつ広がっている。

「邦楽専門実演家養成事業」は、当館の主催事業である古典芸能公演、芝居小屋「長栄座」開座の平成 23 年度より始め、令和 5 年度で 13 年目となる。当館が普及啓発事業として実施している「古典芸能キッズワークショップ」\*、「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*を経て、プロとして活動を目指す箏曲演奏家の養成を目的とし、若手アーティストが滋賀の文化芸術の担い手として成長するために、音楽の知識を深めることや技術のレベルアップを図り、将来、県内外の劇場で活動可能な専門家を養成することを目指し、長期的な視点で育成を支援する目的で実施している。

目標①から③の達成により、「長栄座」公演\*への当該事業の修了生等で構成する滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」の出演が可能となっている。それは、これまで当館が次代を担う小中学生を対象にした「古典芸能キッズワークショップ（箏・日本舞踊）」\*「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*から、「邦楽専門実演家養成事業」と系統立てて実施することで、地道に普及啓発・人材養成を積み重ねてきた成果によるものである。また、「マスターコース」の参加者には外部公演の依頼や、邦楽番組制作者からの問い合わせもあり、これまで積み重ねてきたことへの手応えを感じている。

目標④の指標は設定していないが、当該事業の受講生が県内施設で箏のワークショップを行ったり、コンサートに参加したりと、受講生が当館から活躍する場が少しずつ広がっている。受講生の意欲も高まっていることから、令和 6 年度も、受講生が他施設でワークショップやミニコンサートを行う企画を進めている。

以上のことから、当該事業は急激には成果が出るものではないが、13 年間積み重ねてきた人材養成の実績が少しずつではあるが目に見えて形になってきている。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和5年度は3コースを開講した。A：箏アンサンブル習得コース（幅広く受講生を受け入れるコース）、B：ユース箏アンサンブル習得コース（高校生から35歳までの若手中心のコース）、C：マスターコース（五線譜を用いた楽曲など邦楽をより専門的に学ぶコース）。Bコースは1曲、AとCコースは2曲を学べるよう工夫。それぞれに楽曲につき、8回の稽古を実施して、演奏会に臨んだ。

昨年度は大雪の影響で計画どおりに進めることが出来なかったが、今年度は天候不順の日があったものの、計画どおりに稽古を進めることができた。公演前日はテクニカルリハーサルを中心に行い、これまでの稽古の成果を、照明や映像演出とともに発表した。

10月		11月	12月	1月			2月		
21日 開校式	28日 Aコース	12日 Aコース	16日 B・Cコース	7日 Cコース	14日 A・B・Cコース	20日 B・Cコース	4日 A・B・Cコース	10日 リハーサル	11日 演奏会
稽古	29日 B・Cコース	19日 A・B・Cコース	ス	8日 B・Cコース	ス	ス	ス		修了式
	ス	ス	27日 Aコース	ス		21日 Aコース			
← 立ち上げ期間 →				← 稽古集中期間 →			← 舞台稽古 →		

受講生募集期間：令和5年9月8日～9月30日

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

参加者拡大のため、レベルやニーズに合わせて3つのコースを開設し、受講生が複数の講師から学べるよう工夫した。Aコースでは現代曲だけでなく古典曲にも力を入れ、Bコースでは、「キッズワークショップ：箏」\*、「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*の修了生が参加した。また、特に今年は現代曲を中心に、より専門性の高い演奏を目指したい方を対象とした難易度の高いCコースの参加者が多かった。演奏会に向けて各コースとも稽古を予定どおり、効果的、効率的に進めることができた。



稽古の様子



映像投影の様子



飛鳥時代をイメージした衣裳

事業費について、交付決定額3,589千円に対し、決算では2,688千円となり約25%の事業費減となった。

当初は尺八2人の客演の出演を予定していたが、尺八が不要な楽曲となったため、客演の出演料や交通費が不要となった。また、演奏会では舞台道具を使用せずに映像による演出としたため、事業費を抑えながらも効果的な演出を行うことができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ◆広域的な文化拠点としての可能性

「邦楽専門実演家養成事業」の背景には、滋賀県湖北地域の特性として、邦楽演奏家を支える伝統産業である和楽器弦の生産地を抱えていることが挙げられる。そして、当事業は、邦楽の専門学科を開設している音楽大学以外では、全国的にも稀有な地方における邦楽の専門教育機関としての機能を発揮してきた。新幹線発着駅という公共交通機関の利便性の良さという条件から滋賀県以外に愛知県、京都府、大阪府からの受講生も在籍し、広域的な活動拠点としての優位性があり、今後の多方面への活動展開にも有利な地理的条件が整っている。

#### ◆キーパーソンとなる4人の講師

野村祐子（名古屋芸術大学客員教授）、池上眞吾（東京藝術大学非常勤講師）、片岡リサ（大阪音楽大学特任教授）、吉澤延隆（東海大学非常勤講師）の4人を講師に迎えている。

古典芸能分野では、所属流派の違いが壁になって人材交流の支障になり、邦楽界全体の発展の桎梏となっていることが指摘されて久しい。当事業では、この課題をクリアするために4人の講師を選り、講師それぞれの活動拠点（東京、神奈川、名古屋、大阪）、世代（60代1人、50代1人、40代2人）、男女比（各2人）、3流派（宮城：2人、正絃社：1人、沢井：1人）という絶妙なバランスである。さらに歌唱・三弦の指導から作曲まで対応可能な逸材である。そんな講師陣のもと、流派の異なる受講生たちが、互いに研鑽し切磋琢磨することで流派にとらわれない学びを続けている。

#### ◆事業の成果

「A: 箏アンサンブル習得コース」は野村祐子と吉澤延隆の指導、「B: ユース箏アンサンブルコース」は片岡リサの指導、「C: マスターコース」は片岡リサと池上眞吾の指導、3コースで6曲を10月～2月の5ヶ月かけて学んだ。2月11日の小劇場での演奏会では、古典から現代曲までを披露した。

「A: 箏アンサンブル習得コース」では、受講生から「古典を学びたい」という意欲的な意見により古典曲と現代曲の2曲を学び、演奏手法の違いなどを学んだ。「B: ユース箏アンサンブル習得コース」には、当館主催の「キッズワークショップ：箏」\*及び「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*の修了生が初めて参加し、当館が邦楽を継続して学べるように人材養成に体系的に取り組んできた結果が芽生え始めた。今年度から五線譜の使用を基本に、より専門的な邦楽を学ぶ「C: マスターコース」では、最もハイレベルなコースにも関わらず9人が挑戦し、難曲を見事に演奏した。また、衣裳や映像投影などの演出にもこだわった。

観客のアンケートでも「大変満足」と「満足」が85%を占め、「毎回期待して来るが期待を裏切らない良い演奏会」という声や、「これを機会に箏を習ってみたい」という声も聞かれた。また、演奏会での講師による楽曲解説や、受講生のインタビューなども好評だった。演奏会の観客数も最多数を記録した。

#### ◆長栄座（助成対象外事業）への出演

当館が平成23年度から13年間にわたって制作している古典芸能公演「芝居小屋長栄座公演」\*に一流のプロ実演家とともに出演し、令和5年度の第2部の演目である駅名連歌『まいばらはつ』では県内の児童合唱団や日本舞踊ワークショップを修了した中高生らと共演するなど滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」と「邦楽専門実演家養成事業」受講生は、地域の文化振興に重要な役割を果たしてきた。

新作公演のオリジナル曲を習得し、異なる分野の文化活動者と共演するためのスキルは、普段の自分の学んできた邦楽キャリアとは異なる演奏技術、コミュニケーション力が必要になり、演奏家として成長していくための不可欠な能力でもある。「長栄座」公演\*への出演はこのスキルを身につける実践的な経験を積む貴重な機会でもあった。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ◆子どもから一般まで一貫した邦楽人材の養成システム

当館が実施している人材養成の特徴は、小学生対象の「キッズワークショップ：箏」\*から中学生対象の「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*、一般を対象とした「邦楽専門実演家養成事業」まで年齢に応じた支援体制にある。今年度、10年近くの地道な取り組みの結果、このシステムのモデルケースともいえる人材が誕生した。「キッズワークショップ」から「箏曲ジュニア・アンサンブル」を経て今春、大阪音楽大学邦楽専攻に進学した彦根市在住の受講生が1人、米原市内の高校箏曲部を卒業した1人の計2人の若い世代が「ユース箏アンサンブル習得コース」を受講し、演奏会では箏と十七絃による二重奏を披露した。

「邦楽専門実演家養成事業」修了生から滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」への所属という流れは、途切れることなく継続しており、今後、若い世代が邦楽の魅力を伝える中軸の役割を担ってくれることを期待している。

### ◆滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」活動範囲の拡張

令和4年度には滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」結成10周年記念公演を長浜市の木之本スティックホールで開催した。直近3年間に養成事業で蓄積してきたレパートリー曲をブラッシュアップした演奏は、和楽器弦の産地で邦楽に精通した聴衆にも好意的な評価を受けた。活動範囲を広げる第1歩となり、令和6年度から滋賀県の「北の近江振興プロジェクト」での再演の機会が複数の会場（米原市内寺院、長浜市内ミュージアム）で予定されている。再演回数の増加による演奏経験の蓄積は、プロ演奏家として成長を遂げていくための重要なステップとなる。

また、令和6年6月24日のNHK-FM「邦楽のひととき」で、受講生の橋本桂子と島田彩寧の2人が今回の演奏会で披露した「DANCE IV」（池上眞吾作曲）が放送された。

### ■外部評価1：温井 亮（公益財団法人 日本伝統文化振興財団 公演プロデューサー）

地方における日本の伝統音楽のプロアーティスト養成は、その地域の文化的な豊かさと多様性を保ち、発展させることになると考えています。日本全体での多様性を尊重する視点からも、東京一極集中という現在の主流的な傾向に対するカウンターパートとして、地方の伝統と文化を発信するこの取り組みは、国内のバランス維持にとっても貢献すると思われます。

### ■外部評価2：井口はる菜（関西外国語大学准教授）

現代人の多くは時代を先駆ける新しい音楽を好み、新しい技能を身につけることを望む。それ自体は当然のことであるが、グローバルな社会においては、足もとの文化をしっかりと身につけ、誇りをもって主張し、異文化を有する人たちに理解してもらえよう発信できる人材が真の国際人であり、音楽の世界においても日本の伝統的な音楽を身につけておくことが、これからの時代には重要視される。日本の伝統音楽には様々な種目があるが、和楽器の絃の産地として有名な湖北地域という土地柄、米原における事業としては箏・三弦を用いる地歌箏曲の専門家を育成する意味は大きい。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

「邦楽専門実演家養成事業」

#### P) 助成の趣旨や審査基準を踏まえた活動の企画

助成の観点Ⅰ～Ⅲを踏まえ、当館の位置する滋賀県湖北地域の長浜市木之本町が和楽器弦の生産地であることから、次世代の邦楽演奏者の育成と鑑賞者の拡大を目指して、平成23年度から当事業を行っている。時代や受講生のニーズに合わせ、コース編成や楽曲などに工夫を続けている。

#### D) 助成対象活動の実施

令和5年度は下記のようなコースと講師で実施している。

(コース) A: 箏アンサンブル習得コース (幅広く受講生を受け入れるコース)

B: ユース箏アンサンブル習得コース (高校生から35歳までの若手中心のコース)

C: マスターコース (五線譜を用いた楽曲など邦楽をより専門的に学ぶコース)

(講師) 野村祐子、池上眞吾、片岡リサ、吉澤延隆

#### C) 自己評価／アンケート／事後評価

<自己評価>

- ・Aコースは古典曲を重点的に学び、Bコースでは「キッズワークショップ：箏」\*「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*の修了生が参加、Cコースではハイレベルな演奏を実現でき、各コースとも計画どおり成果が発揮できた。
- ・選曲もバラエティに富んで、質の高い演奏会だった。
- ・当館主催の小学生対象の「キッズワークショップ：箏」\*、中学生対象の「箏曲ジュニア・アンサンブル」\*を経てBコース(35歳以下)に参加し、音楽大学の邦楽科にも進学した。当館が邦楽を系統立てて学べるよう整えてきた結果がやっと芽吹き始めた。

<受講生の声>

- ・自分の師匠は古典曲をほとんど演奏しないので、この事業で古典曲を学べるのは大変ありがたい。
- ・作曲家(池上眞吾)に直接、演奏を指導してもらえる貴重な機会だった。
- ・Cコースに挑戦し五線譜での演奏方法を学ぶことができ、自身の今後の活動の幅が広がりそうだ。

<演奏会アンケート(最多項目)>

(満足)85%、(媒体:チラシ・口コミ)各27%、(年齢:70代)27%、(交通手段:乗用車)71%、(来場地域:湖北)60%、(県外)12%

- ・古典曲から現代曲まで、作曲者も多彩で様々なジャンルの曲が聴けて興味深かった。
- ・普段は西洋音楽のコンサートに行くことが多いが、邦楽の良さ、面白さがわかり、やってみたくなった。
- ・長年の事業継続、相当の苦労があると思うが、益々の展開を期待している。
- ・長浜市木之本町が、箏の弦の産地であることから邦楽演奏者育成に取り組む方針は素晴らしい。

<外部評価>

(4)有効性の箇所を参照

<事後評価>

- ・「邦楽専門実演家養成事業」演奏会がきっかけで、NHK-FMの「邦楽のひととき」にて、受講生2人の「DANCE IV」(池上眞吾作曲)の放送に繋がった。
- ・受講生が所属する滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」を通じて、滋賀県北部の振興事業ができないかと、滋賀県から打診があり、令和6年度に「北の近江振興プロジェクト 北にきゃんせ音楽会」事業が始動した。

#### A) 今後の取り組み(Checkを活かした改善)

<当館・講師の意見>

- ・外部公演を視野に、レパートリーやテーマ曲になる楽曲などを作っていくたい。
- ・古典曲は地唄の発声が難しい、Cコースにも古典曲を導入にはは。

↓

令和6年度の「邦楽専門実演家養成事業」に反映する予定。

平成23年度のスタートから多くの職員が関わり、「邦楽専門実演家養成事業」の理念やノウハウを引き継いでいる。外部公演などで、他館や近隣施設とのネットワークも広がってきた。当事業が、当館の古典芸能の振興に繋がりを、また事業を通じて組織活動が持続的に発展している。